

1. シラバス

人間社会学域 > 学校教育学類 > 家政教育専修			
授業科目名[英文名] / Course Title	家政学原論[Home Economics]		
担当教員名[ローマ字表記] / Instructor	尾島 恭子 [OJIMA KYOKO]		
科目区分 / Category	選択1	単位数 / Credit	2
対象学生 / Assigned Year	2年	開講学期・曜日・時限 / Semester・Day・Period	後期
授業の主題 / Topic			
「家政学」を考える。			
授業の目標 / Objective			
中学校・高等学校で学ぶ家庭科教育の、学問的な位置づけを明確にするため、わが国の家政学とアメリカの家政学の生成・発展の比較を通して、家庭科教育の学問的基盤である「家政学」について理解を深める。			
学生の学習目標 / Prerequisites			
「家政学」という学問領域についての理解を深める。			
授業の概要 / Outline			
原則的には講義形式で行うが、学生も積極的に授業に参加できるように、実際に過去の家政学書を目にしたり、ディスカッションなども取り入れる予定である。内容は下記の通りである。			
第1回：家政学のイメージと実態			
第2回：中学校・高等学校家庭科の学習内容と家政学の研究内容			
第3回：我が国の家政学史(1)			
第4回：我が国の家政学史(2)			
第5回：アメリカ家政学(1)			
第6回：アメリカ家政学(2)			
第7回：家政学の学問体系(1)			
第8回：家政学の学問体系(2)			
第9回：家政学の変革・改名			
第10回：家庭生活の変化			
第11回：家政学における「生活」			
第12回：家政学の独自性			
第13回：家政学の社会的役割			
第14回：これからの家政学			
第15回：まとめ			
評価の方法 / Grading Method			
課題およびレポート			
評価の割合 / Grading Criteria			
課題(50%)、レポート(50%)			
テキスト・教材・参考書等 / Teaching Materials			
教科書は用いない。			
参考資料を随時配布する。			

2. 授業の特徴や授業を行うにあたっての工夫

何のためにこの授業を受けるの？

教員養成系学類での工夫

第2回の授業では「中学校・高等学校家庭科の学習内容と家政学の研究内容」を入れています。家庭科の教員になるために、なぜ家政学原論を学ぶ必要があるのか、その関連性が十分に理解できなければ、学ぶ意欲も薄れてしまいます。そのため、「家政学」を家庭科の背景学問として意識（または自覚）させることを心がけています。

「見て・触れて、少しでも身近に」

学生の興味・関心を喚起する工夫

明治期から大正期に出版された書物を実際に学生にも読ませることで、当時の家政学を身近に感じとらせたり、昭和の暮らしをDVD等の視聴覚教材を使用して確認させたり、リチャーズの水研究の話と家庭科教育の環境領域の内容とを結びつけ、おいしい水検査セット（共立理化学研究所）を使って簡易実習したり、等々アカデミックな講義を、身近なテーマを扱った演習を織り交ぜながら学生が興味を示す内容を試みています。

ただし、学生のニーズ・関心と担当者のニーズ・関心とのギャップがあり、抽象的な話への関心が低い学生が多い中で、どのように学問論の講義に関心を持たせるかは課題の多いところです。

おまけ；「家政学原論」を必修科目に

カリキュラムの工夫

「家政学原論」の開講は、2年生後期（2単位）としています。（本学では、1年次はほとんどが一般教養的な科目の履修に充てられるため、専門科目は2年次から始まります。）教員養成のための本学類では、教員免許取得のためには「家政学原論」は必修科目にする必要はないのですが、「家政学原論」を、家政を学ぶ者の教養的な位置づけとするために、敢えて専門科目を学ぶ最初の1年に必修科目として置いています。